早稲田大学　商学部　日本史

総　論

満　点 60 点	**目標得点** 45 点	**試験時間** 60 分	**偏差値** 71
大問数 6	**小問数** 58		
〔解答形式〕	**選択式** 45/58 問	**記述式** 12/58 問	**論述式** 1 /58 問
〔問題難易度〕	**C** 3 /58 問	**B** 26/58 問	**A** 29/58 問
※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す			

Topics

1：大問６題。１古代、２古代・中世、３近世、４～６近･現代（戦後史が２題にわたる）。

2：史料が古代～近代まで６題中４題出題。正誤問題中心の選択問題が多いが、記述・論述も配す。

3：時代のみでなく、政治史・対外交渉史・社会経済史・文化史もまんべんなく配置して出題。

こんな力が求められる！

１：史料問題が多く、戦後史を含む近･現代をはじめ全時代・全分野から出題されるので、教科書やテキストの精読に始まり、用語集・史料集での確認、問題演習の数をこなし、日本史の総合力を高めておく必要がある。経済問題も積極的に取り組むこと

２：正誤問題が多いのも本学部の特色。しかも該当するものがない場合や、また正解を２つ求めたりするなど、ハードルを高く設定してある。したがって正確な知識を把握しているか、いなかが問われる。用語集などの知識の蓄積と問題演習による実戦力の向上をはかり、正誤問題の対策としたい。

３：ハイレベルな総合力を養成するために、問題演習は不可欠。高３の春から授業の進度にあわせて基本から標準レベルの問題をこなしていき、夏休みあたりで本学の過去問を見る機会を設けたい。秋 10 月くらいからは検討を本格化させたい。

参考図書

お茶の水ゼミナール・テキスト・史料集や問題集。山川出版社『詳説日本史　B』・三省堂『日本史Ｂ』。山川出版社『日本史Ｂ用語集』・山川出版社『詳説日本史史料集』。

大 問 別 分 析

【１】

予想配点 10 / 60 点(各１点)	**時間配分の目安** 8 / 60 分
出題分野・テーマ 奈良朝から平安朝へ	
使用されている資料 史料	
出題形式 選択・正誤	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 高３生：前期３月期古代。後期 11 月期政治史で履修。	

●解答のポイント＆学習対策等

※文章中、C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、で問題難易度を示す

史料Ｉは墾田永年私財法ではなく加墾禁止令。「加墾せしむることなかれ」や寺は例外としている点、「天

2009 Ochanomizu Seminar All rights reserved.

平神護元(765)年」から判断する。複数の設問に影響を与えるので、的確に判断したい。問Ａは条件反射的に１の養老七年は選ばず、２の天平十五年を選ぶ（Ｂ）。問Ｂ－５の「勢力ある家」と「百姓」の格差の状況は易しい（Ａ）。問Ｃの時代背景も４の称徳・道鏡の仏教重視体制を想起すること（Ａ）。問Ｄでは『続日本紀』は奈良時代の基本史料と言われるが、その理由を知っておこう。文武(697)から桓武の 791 年までを扱う。５の天武から桓武まででではない（Ｂ）。問Ｅの 765 年以後としての出来事を探すと、１の恵美押勝の乱 764 年、２の養老律令の施行 757 年、３の光明子の死去 760 年、４の鑑真の来朝 753 年、５の伊治呰麻呂(いじのあざまろ)の乱 780 年となり、５が該当する（Ａ）。

史料Ⅱ：長岡京遷都に関する史料(784)。問Ｆは平安京の造宮長官「藤原小黒麻呂」が登場するが、選択肢に・野郡の平安はなく、「乙訓郡」の２の長岡が素直に選べる（Ａ）。既に述べたが、出典が『続日本紀』であることや次の史料Ⅲも補強材料になる。

史料Ⅲ：問Ｇの平安京は、３の 10 条 10 坊が誤りで 9.5 条８坊が正しい（Ａ）。問Ｈの「先帝」は「近江国」や「大津」とあるので、３の天智天皇を選ぶ（Ｂ）。問Ｉの桓武天皇を悩ませた怨霊は、３の神野親王ではなく早良(さわら)親王（Ａ）。問Ｊの選択肢はすべて９世紀の出来事であり、平安遷都後として不適切なものはなく、６を選ぶ（Ａ）。

【２】

予想配点　10 ／ 60 点	**時間配分の目安**　８ ／ 60 分
出題分野・テーマ　後三条朝・法華一揆	
使用されている資料　史料	
出題形式　選択・正誤	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 高３生：Ⅰ前期３月期古代。後期 11 月期政治史で履修。 Ⅱ前期５月期中世。夏期講習文化史。後期 11 月期政治史で履修。	

●解答のポイント＆学習対策等

※文章中、Ｃ難問、Ｂ合否を分ける問題、Ａ正答すべき問題、で問題難易度を示す

同学部は、頻出と未見の史料を組み合わせてよく出題する。頻出は確実に押さえ、未見史料で勝負。

史料Ⅰ：一見して、慈円の『愚管抄』の延久の記録所の設置に関する史料であることを了解したい。問Ａの後三条朝で実施しない政策は、５の北面の武士の設置で、白河上皇の政策(1095)である（Ａ）。問Ｂ・Ｃは空欄適語、Ｂ－２の延久とＣ－２の官符となる。基本問題（Ａ）。問Ｄの「宇治殿」頼通の正しい説明文は、３の平等院鳳凰堂の建立を選ぶ。１・２・４が父道長、５が実頼、と消去すべき選択肢も易しい（Ａ）。問Ｅの『愚管抄』の著者慈円の説明文では、４の末法思想の慈円の史観への影響を選ぶ。百王思想と同様、慈円の道理史観の根本になる思想であり、消去法などを使わず迷わず選びたい（Ａ）。

史料Ⅱ：史料は比較的簡単であり、読み取り解いても良いが、史料にある「天文」年間(1532-55)から、その代表的な出来事を想起すると、より確実な解答を出せる。天文と言えば、鉄砲伝来 1543 年・キリスト教伝来 1549 年と、法華一揆 1532 年と天文法華の乱 1536 年などを想起できる。これをもとに史料を読み返す。法華宗の力が強い「京中諸勢」が「空欄［　ト　］本願寺へ発向・合戦・攻め落とし、寺を焼く」から 1532 年の法華一揆であることが確定。問Ｆは４の三浦の乱 1510 年がそれ以前の出来事となる。１の王直の処刑(1557)のような難しい選択肢もあるので消去法だけに頼らないこと（Ｂ）。問Ｇは３の山科（Ｂ）。法華一揆は、一向宗の台頭に対して、六角・法華宗徒が山科本願寺を焼き払ったことに始まる。このあたりは入試の成否を分ける。次の問Ｈも設問にヒントがあり近江国からの援軍といえば南近江の守護５の六角定頼を選ぶ（Ｃ）。これが解ければ勢いがつく。問Ⅰ－５の法華宗徒が多

2009 Ochanomizu Seminar All rights reserved.

く焼打ちに加わったことが判る（A）。問Ｊは間違いやすいが、３の延暦寺との対立を選ぶ（B）。これがのちの延暦寺を中心とした逆襲、４の天文法華の乱(1536)に結びつく。

【３】

予想配点　10 / 60 点	**時間配分の目安**　10 / 60 分
出題分野・テーマ　対外交渉史・文化史：島原の乱と近世の一揆	
使用されている資料　史料	
出題形式　組合せ・正誤・選択	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 高３生：前期６月期近世。夏期講習文化史。後期冬期講習対外交渉史Ⅰで履修。	

●解答のポイント＆学習対策等

※文章中、C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、で問題難易度を示す

史料とその説明文から、問題を構成してある。この形式であると未見史料も出題しやすいので、近年増加している。

問A－２の島原領主の松倉勝家と天草領主の寺沢堅高の組み合わせは、他の選択肢１・３・４は幕閣が入っているので排除しやすく、５のほぼ逆の組み合わせと迷うと思われる。（B）。空欄ロのキリシタンに関する問題、問Bはキリスト教に関する知識を総動員して４を選び（B）、問Cでは４の結(ゆい)が弾圧策に当たらない、農繁期の労働力交換である（A）。問Dのキリスト教同様禁止された宗派も、４の日・宗不授不施派を迷わず選ぶ（A）。島原の乱は、問E－３籠城(原城跡)戦であり、領主の城を攻めてはいない（B）。ときの将軍は、問F－１の家光（A）、問Gは松倉・寺沢は参勤中と考え、５の江戸を選ぼう（B）。問Hの年代順の組み合わせ問題も、a (1636)・b (1641)・c (1623)・d (1639)・e (1637)と年号が近接しているが、難解とまではいかない（B）。問Ⅰは２を選ぶ。宗門改役設置(1640)以後に宗旨人別帳の作成が全国化し確立した(1671)という消去法でもいける（B）。問Ｊも同様であり、代表越訴型一揆の代表が２の嘉助騒動(1686)、４の元文一揆(1738)を選べばよい。１・３・５の一揆が天保以降であることを覚えていた諸君は、消去法でも正解が出せる（B）。

【４】

予想配点　10 / 60 点	**時間配分の目安**　8 / 60 分
出題分野・テーマ　幕末の政争から日露戦争までの諸相	
使用されている資料　史料	
出題形式　正誤	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 高３生：前期７月期近・現代。夏期講習近・現代史Ⅰ。 後期 12 月期政治史・冬期講習対外交渉史Ⅱで履修。	

●解答のポイント＆学習対策等

※文章中、C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、で問題難易度を示す

早大の各学部で出題される選択肢を２つ選ぶ問題。当落を決めそうな問題である。

問A．２の三職制の参与には下級公家(岩倉具視など)も任じられ、５の五箇条の誓文は諸侯会議ではなく、天皇が群臣を率いて神に誓う形を取った（B）。問Bは政体書に関しては、２がイギリスではなくアメリカの制度を採用、３の三権分立と太政官への権力集中が逆（B）。問Cは、１の版籍奉還は藩主ではなく官僚が主導し、５の史料が地租改正条例ではなく、史料中の「血税」などから徴兵告諭であること

2009 Ochanomizu Seminar All rights reserved.

を識別する（A）。問Dの士族反乱では、２の敬神党の乱が断髪令ではなく廃刀令に憤激したこと、４の村田蔵六は大村益次郎であり、1869 年暗殺されたことを想起する（B）。問Ｅの明治十四年の政変関連では、２の伊藤の憲法理論はロシアではなくプロシア風、４の大同団結運動は 1881 年ではなく 1886 年であり、難しくはない（A）（ただし、５の大隈の「下野」の表現も？がつく）。問Ｆの地方自治については、１の府県制・郡制は 1890 年、３の町村長は府県知事任命ではなく町村会の選挙による（B）。問Ｇの史料では、山県の主権線・利益線演説における利益線は２の満州ではなく朝鮮、第一議会は 1890 年なので、それ以前の条約というと、４の下関条約(1894)ではなく天津条約(1885)である（B）。問H. 1901 年の社会民主党の結党への参加者は僅か６名なのでこのラインから解く方法と中江兆民が 1901 年没すること(『一年有半』･『続一年有半』)を想起する方法から正解を出したい（A）。問Ｉは内村鑑三の非戦論が史料。１でつまずかない。史料他の部分で過去を悔いている。３・４・５で迷うと思うが、正誤問題はより誤っているものを選ぶ。３は 1891 年の教育勅語不敬事件を、５の『武士道』は新渡戸稲造の著書を指す（B）。問Ｊのポーツマス条約に関しては、正解をだすこと。２の満州の鉄道利権は長春以南で、３の租借権を得た都市は、旅順と大連（A）。

【５】

予想配点　10 ／ 60 点	**時間配分の目安**　10 ／ 60 分
出題分野・テーマ　明治期・戦後の労働運動史	
出題形式　正誤・組み合わせ・記述	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 高３生：Ⅰ夏期講習近・現代史Ⅰ。後期冬期講習社会経済史Ⅱで履修。 Ⅱ後期９月期戦後史。後期冬期講習社会経済史Ⅱで一部履修。	

●解答のポイント＆学習対策等

※文章中、C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、で問題難易度を示す

Ⅰ．明治期：

問Aは、４の第二次松方内閣において大隈重信は大蔵大臣ではなく外務大臣でやや難。５は管理通貨制度移行時の蔵相が井上準之助ではなく高橋是清（B）。問Bは困った問題。筆者とその作品の組み合わせそのものに誤りを探すことに、エネルギーを消費した受験生もいるのではないだろうか。２横山源之助『日本之下層社会』が労働者以外の下層民を、４島崎藤村『夜明け前』が幕末の宿場町の名主を扱い、労働者を扱う作品としては誤りとすれば２・４が正解。ただし、１横光利一『機械』が労働者のルポルタージュではなく心理描写の小説という見方も成り立ち、問題としては（C）レベル。問Cは女性労働者・鉱山労働者の問題では、２の「ストライキを起こさなかった」や５の「三池炭鉱」の炭鉱夫虐待が誤り（A）。問Dの日清戦後の労働運動の黎明と政府の弾圧では、１の労働組合結成会ではなく労働組合期成会、３の治安警察法発布は第二次伊藤ではなく第二次山県内閣（A）。問Eの工場法では、３の12歳以下の就業禁止を規定したが、制定当時10歳や10歳以上で軽微な仕事の場合は許可されるという例外規定があった。また、５の施行は５年後の1916年となった（C）。

Ⅱ．戦後期：問Ｆ．幣原喜重郎（A）　問Ｇ．五大改革指令（A）　問H．団体交渉権（A）
問Ｉ．全日本産業別労働組合会議（B）　問Ｊ．労働関係調整(法)（A）

2009 Ochanomizu Seminar All rights reserved.

【６】

予想配点　10 ／ 60 点(論述３点)	**時間配分の目安**　15 ／ 60 分
出題分野・テーマ　戦時統制経済・高度経済成長と国民生活	
出題形式　論述・記述	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 高３生：Ⅰ夏期講習近・現代史Ⅱ。後期冬期講習社会経済史Ⅱで履修。Ⅱ後期９月期戦後史で履修。	

●解答のポイント＆学習対策等

※文章中、Ｃ難問、Ｂ合否を分ける問題、Ａ正答すべき問題、で問題難易度を示す

Ⅰ．軍事費の増大と統制経済

問Ａ．例年、経済関係の論述問題が出題されるので、近･現代に入ったら経済問題には積極的に取り組もう。重要な経済テーマに関して、短めに説明できるようにしておく。今回は、馬場鍈一による財政。大体、赤字公債(国債)の発行→日銀の引き受け＝日銀券の増刷→物価騰貴(インフレーション)という論理が展開できればよい。

解答例：政府は国民の税負担の強化と日銀引受の赤字国債の発行により財源を確保したが、膨大な紙幣発行は物価騰貴を加速した。（Ｂ 55 字。）

問Ｂ．臨時資金調整(法)（Ｂ）　　問Ｃ．物資動員(計画)（Ｂ）

Ⅱ．高度経済成長と国民生活

問Ｄ．三ちゃん(農業)（Ａ）　　問Ｅ．核家族（Ａ）　　問Ｆ．消費（Ａ）

問Ｇ．手塚治虫（Ｂ）　　問Ｈ．日本万国博覧会（Ｂ）

2009 Ochanomizu Seminar All rights reserved.